

矢上キャンパスでの授業実施における 新型コロナウイルス感染症の予防対策と確認書の提出について

慶應義塾大学は、2020年秋学期においてオンライン（遠隔）授業を継続しながら、一部の授業をオンキャンパス（対面）で実施することを決定しました。理工学部においても、実験・実習科目を中心に一部の授業をオンキャンパスで再開することになりました。しかし、このことは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が終息する見通しが立ったからではありません。

新型コロナウイルス感染症は、まだ未解明の部分も多いですが、4月の緊急事態宣言発令の頃と比べると、研究が進んで様々なことが明らかになってきています。それとともに、感染リスクが高い行為や、感染リスクを小さくする方法なども分かってきました。新型コロナウイルスは、人から人に感染するので、人が集まる社会活動において感染リスクをゼロにするのは不可能ですし、基本的な感染予防対策はひとりひとりの自律的な予防行動に依存せざるをえないと考えられます。それらは、従来から多くの機会でも耳にされているであろう、

1. 3密（密集、密接、密閉）の回避、身体的距離の確保。
2. マスクの着用。
3. まめな手洗い、手指衛生

です。これらを実行することで、感染リスクは非常に小さくすることができるとされています。ここで、極めて重要な点は、これらの感染予防対策を皆さんが正しく実行できているかということです。人間であれば、少しぐらいマスクの着け方がおかしくても見過ごしてくれるかもしれませんが、新型コロナウイルスはわずかな隙も見逃してはくれません。あなた自身は、3密を避け、マスクを着用し、まめに手洗いをしているつもりでも、それが正しく実行されていないければ、感染予防対策をしていないことと同じになってしまいます。

理工学部では、秋学期の対面授業開始を契機に、矢上キャンパスに入構する皆さんに、新型コロナウイルス感染症の予防対策について確認することをお願いしています。これらの予防対策を正しく実行することで、皆さん自身はもとより、キャンパスで活動する人すべての感染予防に寄与することができます。

1. 新型コロナウイルス感染症に対する予防対策をまとめた動画
「キャンパスで安全に活動するために ―新型コロナウイルス感染症予防対策―」
を視聴し、内容を理解してください。
2. 「矢上キャンパスにおける新型コロナウイルス感染症の予防対策に関する確認書」の記載内容について、動画の視聴によって皆さんが確認できたことをチェックし、署名してください。
3. 確認書は、矢上キャンパスに初めて入構する際に、受講する対面授業の担当教員に提出するか、学科の指示に従って提出してください。
4. 矢上キャンパス内だけでなく、日常生活においても正しい感染症予防対策の実行を心がけ、必要があれば動画を再度視聴して、予防対策の復習をしてください。

以上

矢上キャンパスにおける
新型コロナウイルス感染症の予防対策に関する確認書

授業等の目的で矢上キャンパスに入構するにあたり、新型コロナウイルス感染症の予防対策に関する以下の事項について説明を受け、理解したことを確認します。

確認チェック

- 新型コロナウイルス感染症の特徴として、発症前も含めた症状のない感染者からの感染に注意する必要がある、社会活動をする上で感染リスクをゼロにはできないこと。
- 自覚症状がなくても自分自身が気づかぬうちに感染している可能性、症状がない他人が感染している可能性も踏まえて、感染予防対策をとることが重要であること。
- 感染したさいの濃厚接触者の把握のため、スマートフォン所有者に新型コロナウイルス接触者確認アプリ（COCOA）の使用が要請されていること。
- 登校前は、必ず健康状態のセルフチェックを行い、発熱、風邪の症状（咳、息苦しさ、喉の痛み）、嗅覚・味覚の異常などの体調不良がある場合、登校を控えること。
- 37.5℃以上の発熱、息苦しさや強いだるさなどの強い症状がある場合は、保健管理センターに報告義務があること。
- キャンパス入構時にはサーモグラフィによる検温を行うこと。
- キャンパス内で体調不良を感じたときは、速やかに帰宅すること。
- 他人との距離は常に1 m以上（握手ができない距離）に保つことが望ましく、屋外でマスクをしていない場合には、2m以上の距離を保つ必要があること。
- 室内では常にマスクを正しく着用して、口、鼻を覆い、飛沫を飛散させることを防ぐとともに、無意識に手で口・鼻に触れることを防ぐ必要があること。
- 適切なタイミング[†]で手洗い、手指衛生を行い、接触感染を予防する必要があること。
[†]食事の前、トイレの後、部屋に入るとき、共有の物を触った後、顔に触れる前、など
- 正しいマスクの着用の仕方、正しい手洗い・手指衛生の方法。
- 共有物などの高頻度接触面を消毒するときは、アルコールなどの消毒剤を直接噴霧するのではなく、消毒剤をペーパータオルに含ませて、消毒する場所を拭くこと。
- 飲食時の感染リスクは極めて高いことから、同じテーブルで向かい合って飲食をしたり、飲食中に会話したりすることは避けること。
- 家族、同居人以外の複数人の会食は、学生総合センターが自粛を強く要請していること。
- 予防対策を実施していても全ての人に感染のリスクはあること、自分が感染したことを想像して、感染者への配慮を欠いた言動や SNS への発信は慎むこと。

学籍番号 _____ 理工学部 _____ 年（ _____ 組、 _____ 学科）

学生自署 _____ 年 月 日

2020.09.17